

「思いは形で表現しましょう」

鳥取県 知ち足そく院いん住職 山崎 智ち鑑かん

亡くなられた方のご供養のため、お寺の本堂で法要を行いました。参列された方々が、本堂中央のご本尊様の前で焼香され、亡くなった方のご冥福を祈りました。

すべてのご供養が終わり、参列された方から声をかけられました。「ご供養は、思いがあれば良いと言われたのですが、それで良いのでしょうか」と尋ねられたのです。

私は「確かに心がこもっているということが、一番大切なことです。せつかくご供養にいられても、合掌の形も頭の下げ方も、まるで達にもするかのようになりに軽く挨拶をされる方を見かけます。大切なことは、思いを形で表現できるようにすることです。思いを形で表現出来るようになると、仏さまにもお招きいただいた方にも、心が伝わると思いますよ」とお話しました。

話を聞いてすぐに実行することは難しいのかもしれませんが、「まずは、亡くなられた方に感謝の気持ちを込め合掌し、挨拶をされてはいかがでしょうか」と話しました。腕が上がりにくい人も、腰が曲げにくい人も、その人その人の出来る範囲でよいですから、思いを形にして仏さま、ご先祖様に向かい手を合わせ、心を込めて礼拝されてはいかがでしょうか。形に表わせば、思いをきれいに表現出来ます。挨拶も同じ、言葉と動作で思いを表現することです。どうぞ実践してみてください。